

令和5年度第2回大分県ツーリズム戦略推進会議 委員意見

日時：令和5年11月13日(月) 15:00～16:30

場所：ソレイユ 6階 つばき

項目	No.	発言の要旨
協議事項(1) 宿泊客等・最近の動向 について	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで何が変わったのか、何を取り戻さないといけないのかを分析して戦略に生かすことが必要。決してコロナ前と同じではいけない。 ・別府は以前と違い欧米の方が増えたが、なぜ増えたのか理由を探ることが将来の戦略に向けて生きていくのではないか。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の方々が持っている九州の知識はまだ足りていないと思っている。来日2～3回目の人達に九州、大分の魅力を伝えることが必要。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のDCは「おんせん県おおいた」で一点突破だったが、今回のDCでは福岡県も一緒ということもあり、全面展開をいかに成功させるかがカギとなる。 ・オーバーツーリズムの地域がいかに県内のお隣さんを紹介できるか。DCに向けて県内でスクラムを強化することが大事。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のDCは前に比べて地元がマイクロツーリズムやラグビーワールドカップを経験しているという違いがある。受入側に良かった時の感動を思い出してもらうことも大事。 ・今回地元向けに施策を打ってもらっているが、観光産業が地域経済にどれだけプラスになって好循環が生まれるかを県民の皆さんに伝えることが大事だと思う。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・バス運転手が不足しているため、外国人でも2種免許が取れるよう要望しているが、すぐにはできないのではないので各社それぞれ対策を講じている。 ・貸切バスの需要はコロナ前に戻ってきているが、バスの台数が減っているのでお客様には窮屈な思いをさせてしまうこともある。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社各社と協定旅館ホテル連盟で2月に大阪でキャラバンを実施する。併せて大阪で旅行会社向けに大分のPRを行う予定。今回は、販売の実務担当者に大分の旅行商品を具体的に紹介することがポイント。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドについて数字に基づいた分析はされているが、それだけではなくその人たちの嗜好性を分析する必要がある。同じ場所でも国によって全然反応が違う。自分達でも可能な限りヒアリングをしたいが、せっかくこのように横断的にできる組織なので、海外の嗜好性を含めた分析が今後蓄積されていくとよい。 ・自分には小さな子どもがいるが、旅行をするときは子どもにとって優しい施設や場所であるかどうか大事。もし大分が子どもにとって優しい場所にするなら、そのために尖った施策を打ち出してほしい。

令和5年度第2回大分県ツーリズム戦略推進会議 委員意見

日時：令和5年11月13日(月) 15:00～16:30

場所：ソレイユ 6階 つばき

項目	No.	発言の要旨
協議事項(2) 令和6年度県政重点方針 について	8	<p>・県政重点方針の資料に「多様性を認め合い共生・共創する社会への要請」とある。在日外国人との交流や支援をする団体が県内にあると思うが、そのような団体への支援について文言がないので、入れられるのであれば県政重点方針の中に入れてほしい。</p>
	9	<p>・災害時に、宿泊しているお客様をどのように避難させるか、避難所で地域住民とどのようにバランスをとるのか、お客様への情報提供をどのようにするかなど、各市町村はもちろん県も中心となってそれぞれの地域でどのようなシステムを作るかを項目として入れたほうがよいと思う。</p> <p>・ユニバーサルデザインなど弱者に優しいというアピールも必要。宿泊施設もそれぞれ取り組んでいると思うが、車いすや多目的トイレ、授乳室があるなどきめ細かい情報を避難所情報も含めて観光情報として取りまとめたマップを作るなどが必要ではないか。</p>
	10	<p>・高付加価値化事業は、一次産業が6次化をしていても観光とは結びついていないと思っていたので、いい取り組みだと思う。ローカルツーリズムや一次産業を観光に結びつけるのは大事なので、ぜひ重点的に取り組んでほしい。</p> <p>・他県でもそうだが、一部の観光に特化した地域だけではなく、それ以外の農村など田舎にも海外の方も含めて価値を感じてくれているので、中心部ではないところも支援するような策をぜひお願いしたい。</p>
	11	<p>・農業体験のニーズはあると思う。台湾等にセールスに行った際、エージェントからよく必要とされる情報はお客様の体験をイメージさせること。海外のお客様は大分で何ができるかわからないので、来てからこちらで説明をしているが、もっと前に情報を伝達する手段があれば「こういう体験ができるから大分へ来てください」と戦略をとれるので、力を貸していただきたい。</p>
	12	<p>・市内でも県内でも、点ではなく面で考えて、どれだけ地域に引き寄せられるか。また、連泊してもらうことで高付加価値化に繋げていくかが今後の目標だと思う。</p> <p>・APUなどの留学生ガイドを育成するのはどうか。ガイドがいるかないかで全然違う。ガイドを体験してもらったら、必ず自分の国に帰った時に大分でこんな経験をしたと広告塔として広げてくれると思う。ガイド育成は今から重要になると思うので、そこも含めて取り入れていただけるとありがたい。</p>
	13	<p>・県政重点方針に「米国を戦略国に位置付ける」と記載があるが、米国だけに限定しているのか。</p>
14	<p>・1987年日経新聞全国版に当時の大分県の観光政策が掲載されており、まさにガストロノミーやカルチャーツーリズム、体験型ツーリズムなどこれからの観光はこれだと紹介していた。今回の県政重点方針にも記載があるが、なぜ35年も進んでいないのか理由を考えてほしい。その理由がわからないとまた35年後に同じ事を繰り返すことになるのではないか。</p>	